

アジア研究 I

担当教員 仲里 効

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、共通科目の半年間の講義であるため、アジアに関するごく基本的事項の認識と再確認を主眼としている。アジアに関する基本的知識と様々な問題や課題の所在を確認したい。そして、受講生各自の関心に基づき、アジアに関する多種多様な導入口を見だし、その関心の持続とより個別的な課題の探求のきっかけとなるような授業をこころがけたい。

【授業の展開計画】

日本はアジアに多くの植民地を領有し、戦争につき進み、そして敗れた。アジアにとってそのことはどのような経験としてあり、何をもたらしたのかを、おもに「領土問題」を中心に考えていく。その歴史的背景と解決方法とは？ そのために果たしうる沖縄の経験と視点とは？ 予定しているテーマは以下のとおりである。

授業の内容

- 1 近代日本の植民地主義①（琉球処分と台湾領有）
- 2 近代日本の植民地主義②（韓国併合と中国侵略）
- 3 「15年戦争」とその帰結としての沖縄戦
- 4 日本の敗戦と「分割された領土」
- 5 「領土問題」の発生とその現在
- 6 「北方領土」問題
- 7 竹島（独島）問題
- 8 「尖閣諸島（釣魚島）」問題
- 9 その① 歴史的背景
- 10 その② 日本の主張
- 11 その③ 中国の主張
- 12 その④ 台湾の主張
- 13 その⑤ 沖縄の立場
- 14 「辺境東アジア」とせめぎあうアイデンティティ①
- 15 「辺境東アジア」とせめぎあうアイデンティティ②
- 16 沖縄から見たアジア、アジアから見た沖縄

【履修上の注意事項】

私語厳禁

【評価方法】

出席、レポートの二点を勘案して総合的に評価するが、その中でとくにレポートを重視する。ただし、出席は原則として毎回確認するので、レポートを提出したとしても、欠席の多い受講生は不可にする。

【テキスト】

授業では、適時プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で、毎回複数の参考文献を明示する。学期末には、その中から関心をもったテーマに関する文献を読んで、レポートの課題とする

アジア研究Ⅱ

担当教員 原田 優也

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アジア研究Ⅱ

担当教員 仲里 効

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、共通科目の半年間の講義であるため、アジアに関するごく基本的事項の認識と再確認を主眼としている。アジアに関する基本的知識と様々な問題や課題の所在を確認したい。そして、受講生各自の関心に基づき、アジアに関する多種多様な導入口を見だし、その関心の持続とより個別的な課題の探求のきっかけとなるような授業をこころがけたい。

【授業の展開計画】

アジアの近代は、欧米列強と日本による植民地化の歴史であった。戦後もその負の遺産は解消されることなく冷戦構造下で孤立と分断を強いられてきた。アジアにとってそのことはどのような経験として受けとめられたのか、そして脱植民地化への道をどのように歩んだのかを、映画と文学表現を通して考えていく。予定しているテーマは以下の通りである。

授業の内容

- 1 日本の近代とアジアの近代
- 2 アジアの植民地地図
- 3 台湾ニューシネマとポスト植民地問題
- 4 侯孝賢と『非情城市』
- 5 呉念真と『多桑』
- 6 王童と『無言の丘』
- 7 植民二世と〈故郷〉
- 8 森崎和江と〈朝鮮〉
- 9 安部公房と〈満州国〉
- 10 〈在日〉の経験と思想
- 11 「クレメンタインの歌」（金時鐘）を読む（1）
- 12 「クレメンタインの歌」（金時鐘）を読む（2）
- 13 『パッチギ』と〈在日〉の青春
- 14 沖縄に内在するアジアの植民地・脱植民地問題
- 15 「台湾行き数え歌」と「魚群記」（目取真俊）の世界
- 15 映像集団NDUの試みと軌跡

【履修上の注意事項】

私語厳禁

【評価方法】

出席、レポートの二点を勘案して総合的に評価するが、その中でとくにレポートを重視する。ただし、出席は原則として毎回確認するので、レポートを提出したとしても、欠席の多い受講生は不可にする。

【テキスト】

授業では、適時プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で、毎回複数の参考文献を明示する。学期末には、その中から関心をもったテーマに関する文献を読んで、レポートの課題とする。

アメリカ研究

担当教員 佐藤 学

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目は、アメリカ合衆国を、多面的・多層的に見ていくための基礎を学び取ることを目的とする。良く知っているはずの、最も重要な国であるが、あなたは、どれだけ「本当の」アメリカ合衆国を知っていますか？担当教員は、米国政治を専攻する政治学研究者であるが、この科目では、社会・文化も含めた幅広い題材を使って、アメリカ合衆国を理解するための視座を提供するつもりである。

【授業の展開計画】

成績評価は、レポートによる。他、授業への参加（質問、質問への回答）も考慮する。

週	授 業 の 内 容
1	歴史の概要と国の形「アメリカ合衆国の光と影」
2	政治の姿：大統領と連邦議会、連邦政府と州政府、民主党と共和党
3	政治の姿：続き
4	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：経済と産業の姿
5	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：政府の役割、研究
6	アメリカで暮らす（1）：住宅
7	アメリカで暮らす（2）：教育・仕事
8	アメリカで暮らす（3）：医療・食生活
9	アメリカを聴く＜音楽のアメリカ＞：あなたはアメリカの音楽を聴きますか？
10	アメリカのメディア：新聞、雑誌、TV
11	映画の見せるアメリカ
12	公民権運動：アメリカ合衆国の栄光
13	軍の国、銃の国：外交、安全保障、国内治安
14	日米関係を考える
15	世界の中のアメリカ合衆国
16	

【履修上の注意事項】

高校までに学習したアメリカ合衆国に関する知識を復讐しておくこと。新聞の国際記事を読む習慣をつけること。

【評価方法】

レポートを課す。出題については、事前に説明する。

【テキスト】

使用しない。授業レジュメと資料を配布する。

【参考文献】

講義内で適宜紹介する。

アラブ研究 I

担当教員 エルサムニー イブラヒム アリー

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

アラブ研究Ⅱ

担当教員 エルサムニー イブラヒム アリー

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国際経済

担当教員 当銘 学

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

産業革命、運輸革命、エネルギー革命、情報通信革命は一国の経済活動の領域を拡大させ、もはや一国で経済が成り立たない。米国を軸とする第二次大戦後の新たな世界経済の枠組みは、日本などの先進工業国の台頭と列強諸国の植民地から多くの独立国を誕生させる一方で南北問題を浮上させた。「金本位制」「為替制度」「ガット体制」「IMF体制」「市場統合」「資本移動」「国際収支」「WTO協定」「エネルギー問題」「ハイテク技術」等の国際経済のキーワードを軸に歴史的・総括的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

関連するテレビ特番のビデオや新聞・雑誌等の記事を教材として活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	大航海時代
3	覇権国家の変遷
4	ボックス・ブリタニカ
5	アメリカ経済の勃興
6	戦後の国際経済体制
7	変動相場制への移行
8	70年代の世界経済(石油危機・金融改革)・テスト
9	80年代の世界経済(通商摩擦)
10	市場統合と三極体制
11	WTO体制下の世界経済
12	90年代後期の世界経済動向
13	WTO加盟後の中国経済
14	現在の世界経済動向
15	総括
16	レポート提出とテストを行います

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもつこと。レポートはワープロで作成すること。

【評価方法】

1000点満点 出席点：450点、レポート：300点、テスト：250点
レポートと出席状況、理解度確認のためのテスト(2回)により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。プリントを使用する。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、『世界経済図説 第二版』 宮城 勇・谷屋禎三 著 (岩波新書出版)、 『ゼミナール 国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社)

国際政治

担当教員 野添 文彬

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、このような現在の国際政治を理解する手掛かりとして、20世紀の国際政治の歴史を、特にアメリカ外交を中心にして学ぶことを目的とします。今日、21世紀の国際政治における諸問題の多くは、経済、科学技術、文化が発展した一方で、二つの世界大戦など悲惨な出来事も多く起きた20世紀にその起源があると考えられます。また、20世紀は「アメリカの世紀」と言われるほど、政治・経済・軍事などあらゆる側面でアメリカが圧倒的な存在感を有し、現在でも国際政治を理解する上でアメリカ外交を無視することはできません。講義では、映像資料なども積極的に活用し、初学者でもわかりやすい内容になるよう心掛けたいと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	建国から19世紀までのアメリカ外交
3	ウィルソン大統領と第一次世界大戦
4	第一次世界大戦後の世界とアメリカ
5	第二次世界大戦とアメリカ
6	ルーズベルト大統領と第二次世界大戦後の国際秩序構想
7	トルーマン・ドクトリンと冷戦の開始
8	朝鮮戦争
9	アイゼンハワー大統領とニュールック戦略
10	ケネディ大統領とキューバ危機
11	ジョンソン大統領とベトナム戦争
12	ニクソン大統領とデタント
13	新冷戦の開始とレーガン大統領
14	ブッシュ、クリントン大統領と冷戦後の国際政治
15	ブッシュからオバマへ
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語は厳禁とする。

【評価方法】

テストを主とし、出席を加味して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

石井修『国際政治史としての20世紀』有信堂高文社、2000年
 佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史 新版』有斐閣、2009年
 佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年

国際平和学 I

担当教員 安良城 米子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、戦争の諸原因と平和の諸条件を学んでいく。平和の追求は戦争や紛争などの直接的（人為的）暴力の不在の平和はもとより、環境破壊、飢餓、貧困、抑圧、差別などの構造的暴力のない積極的平和を目指すとの理解を深め、積極的平和創造の努力の方向性を模索していく。特に沖縄においては、沖縄戦と米軍基地問題を平和学の視点で学ぶ。それらのことから「ローカル」な問題を「グローバル」な視野で捉えることが求められていること、同時に沖縄から発信する平和とは何か。その可能性を共に考えて行きたい。

【授業の展開計画】

<前期>

まず、前期は「平和学」とは、「平和」とはを、基礎的な理論を通して理解を深める。同時に平和学の対象となる具体的な事例、直接的（人為的）暴力を平和学の視点で考察していく。

週	授 業 の 内 容
1	平和学へのアプローチ—私たちは今どのような時代に生きているのだろうか
2	平和学のパラダイムと課題—平和学の誕生とその発展過程
3	有事法制下の日本・沖縄のいま
4	沖縄住民と軍事基地
5	沖縄住民と軍事基地
6	平和学の方法—エンパワメントとエクスポージャー
7	「国家」とは—平和国家を問う沖縄
8	国連と琉球—琉球人の自己決定権と国際法
9	沖縄戦認識①
10	沖縄戦認識②
11	レポート提出
12	沖縄戦と有事法制—国内法・国際法の視点から
13	沖縄戦と有事法制
14	科学技術と平和—「人間の安全保障」の視点から
15	21世紀の平和学—「共生」と「人間の平和保障」
16	期末試験

【履修上の注意事項】

新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など）

私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。

「国際平和学 I」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞り講義し、「国際平和学 II」では、その理論を踏まえて構造的暴力の事例を中心に授業を行う。そのため、後期の受講は前期を履修した学生であることが望ましい。

【評価方法】

出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。

出席・授業参加姿勢（30%）、レポート（40%）、期末試験（30%）

【テキスト】

・毎回、講義のレジュメと資料を印刷して配布する。同時に視覚教材のDVDを用いて授業をすすめる。

【参考文献】

『ピース・ナウ沖縄戦—無戦世界のための再定位』法律文化社 『琉球独立への道』松島泰勝著 法律文化社 『危機の時代の平和学』木村 朗著 法律文化社、『今平和とは何か』藤原 修／岡本三夫編 法律文化社 『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地 博編 法律文化社、その他は、講義の中でその都度紹介する。

国際平和学 I

担当教員 西岡 信之

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現在、安倍政権が進めようとしている「積極的平和主義」とは、平和学の理論である「積極的平和主義」とは、まったく別のものです。安倍政権がめざしているのは、米国のように軍事力をいつでもどこでも行使できる国家です。米国によるアフガニスタン・イラク戦争。この二つの戦争を検証することにより安倍政権の「積極的平和主義」が誤っていることが理解できるはず。本講義では、ヨハン・ガルトゥング氏など平和学の基礎理論をはじめ、現実に世界で今起こっている社会問題に焦点をあてます。新自由主義による戦争や格差貧困を生み出す社会ではなく、平和で豊かな未来を展望します。

【授業の展開計画】

前期の講義では、米国の戦争＝イラク・アフガニスタン戦争をとりあげ、戦争犯罪の実態、帰還兵士の反戦運動の現実を知る。またイラクやアフガニスタンでの自由と平等・民主化をめざす人々の取り組みを学ぶ。テーマとして、軍隊の暴力性、軍隊の本質、戦争犯罪、市民による非暴力による抵抗運動などを考察する。

後期では、沖縄戦、米軍基地、自衛隊、集団的自衛権、無戦社会の実現に向けた内容とする。

週	授 業 の 内 容
1	国際平和学入門ガイダンス — 積極的平和主義とは何か
2	市民自治 — 米国カリフォルニア州バークレー市がめざす町づくり
3	ショック・ドクトリン — 惨事便乗型資本主義の正体を暴く
4	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか? ① 捏造された開戦理由
5	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか? ② 冬の兵士 — 良心の告発
6	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか? ③ 女性兵士が見たイラク戦争
7	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか? ④ 反戦帰還兵の沖縄
8	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか? ⑤ 戦争犠牲者は女性と子どもたち
9	アフガン女性の闘い — 女性の人権を確立させるために
10	無人機・ロボット兵器が戦争を変える
11	戦争犯罪を裁く — アフガニスタン国際戦犯民衆法廷 ①
12	戦争犯罪を裁く — アフガニスタン国際戦犯民衆法廷 ②
13	戦争違法化をめざして — 戦争をなくすための国際法
14	軍隊のない27の国家 — 非武装で平和をつくる
15	国際平和学がめざすもの
16	補講等、調整日

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。また大幅な遅刻や早退、途中退席などは、授業参加姿勢に課題があると評価します。

【評価方法】

出席票に講義に関する感想、意見、質問などのコメントを毎回書いていただきます。それによって出欠状況と授業参加姿勢を見ます。期末にレポートを提出していただきます。出席・授業参加姿勢とレポートで評価を行います。試験は行いません。

【テキスト】

前期は特に指定しません。
毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考文献】

『ピース・ナウ沖縄戦 — 無戦世界のための再定位』石原昌家編著（法律文化社）、『市民の平和力を鍛える』前田朗著（ケイ・アイ・メディア）、その他は、講義の中でその都度紹介します。

国際平和学Ⅱ

担当教員 安良城 米子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、戦争の諸原因と平和の諸条件を学んでいく。平和の追求は戦争や紛争などの直接的（人為的）暴力の不在の平和はもとより、環境破壊、飢餓、貧困、抑圧、差別などの構造的暴力のない積極的平和を目指すとの理解を深め、積極的平和創造の努力の方向性を模索していく。特に沖縄においては、沖縄戦と米軍基地問題を平和学の視点で学ぶ。それらのことから「ローカル」な問題を「グローバル」な視野で捉えることが求められていること、同時に、この世界的な平和の危機の時代に沖縄から発信する平和とは何かを共に考えたい。

【授業の展開計画】

<後期>

戦争や紛争のただ中にあるわけではないが、決して平和とは言えない状況がある。それら構造的暴力を明らかにしつつ、積極的平和構築の希望の道標を求めていく。

週	授 業 の 内 容
1	「平和」とは－世界は今… 構造的暴力の不在を求めて
2	積極的平和とは－構造的暴力とは
3	市民社会とグローバルな諸課題－開発NGOを中心に
4	貧困－インドの経済学者ムハマド・ユヌス氏（ノーベル平和賞受賞）の活動
5	国際連合とNGO－ユニセフを通して「激動の地で子どもを守る」
6	紛争地で命がけの交渉－「武装解除のプロは女性32歳」
7	環境と平和学－環境問題における直接的暴力と構造的暴力
8	世界人権宣言
9	世界人権宣言
10	レポート提出
11	帝国主義と脱植民地化－人種主義と多文化主義
12	脱植民地化と琉球－「先住民の権利に関する国選宣言」
13	平和教育－方向性の転換の中で
14	核と平和－核兵器廃絶への方途
15	平和に捧げた生涯/マザー・テレサ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など）

私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。

「国際平和学Ⅰ」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞り講義し、「国際平和学Ⅱ」では、その理論を踏まえて構造的暴力の事例を中心に授業を行う。そのため、後期の受講は前期を履修した学生であることが望ましい。

【評価方法】

出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。

出席・授業参加姿勢（30%）、レポート（40%）、試験（30%）。

【テキスト】

・毎回、講義のレジュメと資料を印刷してを配布する。視覚教材のDVDを用いて授業をすすめる。

【参考文献】

『ピース・ナウ沖縄戦－無戦世界のための再定位－』法律文化社 『琉球独立への道』松島泰勝著 法律文化社
 『危機の時代の平和学』木村 朗著 法律文化社、『今平和とは何か』藤原 修／岡本三夫編 法律文化社
 『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地 博編 法律文化社、その他は、講義の中でその都度紹介する。

国際平和学Ⅱ

担当教員 西岡 信之

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

このシラバス作成は、今年2月時点のため10月以降の国内外情勢の変化によって講義内容を多少変更します。安倍政権は、集団的自衛権行使の日米軍事一体化、原発再稼働、アジア太平洋戦争における日本軍の侵略戦争を賛美するような歴史認識の捏造や排外主義を強めています。しかし、沖縄の反基地闘争や特定秘密法、脱原発などに見られるように安倍政権に抗議する国民運動も継続しています。後期の国際平和学は、前期のイラク・アフガン戦争の検証をふまえ、米国をはじめとする先進国における多くの国民に貧困格差を生む労働政策や軍事費拡張による経済システム国家ではなく、「絶対的平和主義」に基づく平和国家群の構築を模索します。

【授業の展開計画】

後期の講義では、日米安保・地位協定、集団的自衛権行使、国家安全保障、第1次・第2次世界大戦、国連憲章などのテーマにそって、国際人道法の「軍民分離」原則を考察する。戦争はいつも弱者に被害を出してきた歴史に学び、一般市民をどう戦争の惨禍から守るのか、国際的な平和なルールづくりを検証する。また格差社会をなくす取り組みについても考察する。さらに普天間移設や自衛隊の沖縄配備強化などの沖縄の基地問題についても、情勢の動きを見ながら授業の中でとりあげていく。

週	授 業 の 内 容
1	国際平和学Ⅱのガイダンス — すべての暴力のない世界へ
2	日米安保・地位協定を考える
3	北東アジアの平和を — 領有権問題を考える
4	有事法制下の日本・沖縄のいま — 集団的自衛権とは何か
5	文民保護の国際ルール — 「軍民分離」原則
6	憲法九条・非暴力平和思想の具現化 — 無防備地域宣言運動
7	沖縄戦—軍隊のいない島
8	沖縄戦—軍隊のいない地域
9	沖縄戦—朝鮮半島から強制連行された若者たち — 「慰安婦」と軍夫問題
10	靖国神社と沖縄戦 — 戦争犠牲者の合祀取り消し裁判
11	戦争違法化の歴史 — 近現代の国際人道法を学ぶ
12	ピース・ゾーン — 戦争の出来ない地域をつくる
13	格差・貧困のない社会を — ①奨学金返済問題とは何か
14	格差・貧困のない社会を — ②ブラック企業問題とは何か
15	非暴力、脱原発、非武装、無防備の平和のつくり方 — 無戦社会を展望する
16	補講等、調整日

【履修上の注意事項】

私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。また大幅な遅刻や早退、途中退席などは、授業参加姿勢に課題があると評価します。

【評価方法】

出席票に講義に関する感想、意見、質問などのコメントを毎回書いていただきます。それによって出欠状況と授業参加姿勢を見ます。期末にレポートを提出していただきます。出席状況、授業参加姿勢、レポートで評価を行います。試験は行いません。

【テキスト】

『ピース・ナウ沖縄戦 — 無戦世界のための再定位』石原昌家編著（法律文化社）。また必要に応じて、レジュメと参考資料を配布します。

【参考文献】

『市民の平和力を鍛える』前田朗著、ケイ・アイ・メディア。その他、講義の中でその都度紹介する。

国際理解課題研究 I

担当教員 上江洲 律子

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

日本にとっては他者というべき「ヨーロッパ」を、物語や映画などの表象を通して考察することで、知識と同時にものの見方の幅を広げることを目標とします。前期は、まず、童話『星の王子さま』をテキストとして物語に内包されるヨーロッパの状況を読み解いた後、対象を映画(アニメ)『王と鳥』に変えて同様に考察します。後期は、履修している学生の方々が、それぞれ興味のあるテーマを、文化や芸術、歴史や言語、政治や経済などの分野から取り上げて考察し、発表を行います。発表と参加者全員による討論を通して、お互いにヨーロッパについての考察を深めていきましょう。

【授業の展開計画】

前期期間

後期期間

第01回：ガイダンスと前期分担の決定
 第02回：テキストの分析のガイダンス
 第03回：テキストの分析と考察(1)
 第04回：テキストの分析と考察(2)
 第05回：テキストの分析と考察(3)
 第06回：テキストの分析と考察(4)
 第07回：テキストの分析と考察(5)
 第08回：テキストの分析と考察(6)
 第09回：映画の分析のガイダンス(1)
 第10回：映画の分析のガイダンス(2)
 第11回：映画の分析と考察(1)
 第12回：映画の分析と考察(2)
 第13回：映画の分析と考察(3)
 第14回：映画の分析と考察(4)
 第15回：前期のまとめ

第16回：前期の復習と後期分担の決定
 第17回：発表と討論のガイダンス
 第18回：発表と討論(1)
 第19回：発表と討論(2)
 第20回：発表と討論(3)
 第21回：発表と討論(4)
 第22回：発表と討論(5)
 第23回：発表と討論(6)
 第24回：発表と討論(7)
 第25回：発表と討論(8)
 第26回：発表と討論(9)
 第27回：発表と討論(10)
 第28回：発表と討論(11)
 第29回：発表と討論(12)
 第30回：発表と討論(13)
 第31回：後期のまとめ

【履修上の注意事項】

履修した学生の方々の発表によって生み出される授業です。学生の方々は各自、「ヨーロッパ」という大きな概念に取り組むことで、自らの視野を広げると同時に、真摯な発表を通して口頭によるプレゼンテーション能力を高め、社会で生き抜く力を培うことを目指して下さい。

【評価方法】

主にゼミにおける発表(80%)によって評価します。また、出席(20パーセント)も評価に加味します。

※単位取得のために、授業の3分の2以上の出席を義務付けます。

【テキスト】

サン＝テグジュペリ『星の王子さま』内藤濯訳、岩波書店

※『星の王子さま』は、上記の内藤濯訳をはじめ、数多くの訳本が出版されています。どの訳本でも構いませんので(訳本同士の表現比較も試みます)、各自、事前に入手して目を通して置いて下さい。

【参考文献】

ガイダンスの際に紹介するほか、授業内で必要に応じて紹介します。

国際理解課題研究 I

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、東アジアのなかでも最も日本の隣国であり、相互理解の面においても欠かせることができない韓国に焦点を当てる。地理的に近い国でありながら、両国家間の政治的・歴史的要因から文化理解の面で長い時期断絶されていたものの、近年においては「韓流」というサブ・カルチャー的要素が一躍買っている現状がある。今後、サブ・カルチャー的要素だけにとらわれず、真の相互理解を深めることは大変重要である。講義では、韓国の歴史や社会、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較していくことで、日本人としての自文化を再認識するとともに、今後における日韓の相互理解について考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」	17	研究調査の方法と論文作成について
2	東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」	18	テーマ設定と自己計画シート作成
3	韓国の社会1「生活・経済」	19	文献探索と発表・討議
4	韓国の社会2「教育制度と今日の教育事情」	20	文献探索と発表・討議
5	韓国の社会3「IT社会と韓国語の変容」	21	計画遂行における見直し1
6	グループ発表と討議	22	テーマに沿った調査報告
7	韓国の文化1「行事をめぐる伝統文化」	23	テーマに沿った調査報告
8	韓国の文化2「衣・食・住」	24	テーマに沿った調査報告
9	韓国の文化3「伝統から現代へ」	25	計画遂行における見直し2
10	グループ発表と討議	26	調査結果の分析とまとめ
11	日韓相互理解1「韓国における日本観」	27	調査結果の分析とまとめ
12	日韓相互理解2「日本における韓国観」	28	研究結果の発表
13	日韓相互理解3「文化リテラシーの必要性」	29	研究結果の発表
14	グループ発表と討議	30	研究結果の発表
15	前期のまとめ	31	後期のまとめ・自己評価
16	後期の流れとテーマ設定に関する討議		

【履修上の注意事項】

各自がテーマを設定し論文を書くという前提で受講して欲しい。
自己計画シートを作成し、積極的に遂行していく姿勢を重視する。
また、協働のなかで自分の役割をしっかりと果たせるように頑張ってもらいたい。

【評価方法】

出席・クラス活動への参加度（30％）とグループまたは個人発表・課題（70％）などを合わせて評価する。

【テキスト】

テーマに合わせて随時プリントを配布する。

【参考文献】

北尾謙治 他（2005）『広げる知の世界－大学での学びのレッスン－』ひつじ書房
小此木政夫 他（2012）『日韓新時代と東アジア国際政治』慶應義塾大学出版会
その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。

多民族論

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

20世紀そして21世紀は「ナショナリズム・民族紛争の時代」だといわれる。「民族」とは何なのか、それは「国民」とどう違うのか、それは歴史的にどのように形成されてきたのか、それが「問題化」する要因とはなにか？

本講義の主眼は、「民族」・「ナショナリズム」をめぐる歴史のおよび現代的状況を世界各地の具体的な事例に基づいて理解することにある。政治・経済的な視点のみならず、人類学的な観点から「民族」・「ナショナリズム」を取り巻く歴史と現状を解き明かし、多文化共生の可能性を探求する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「民族」とは何か——本質主義と構築主義
3	映像鑑賞——人類の多様性／一体性と「民族」紛争
4	近代「国民国家」の成立（1）——ウェストファリア体制と絶対王政
5	近代「国民国家」の成立（2）——市民革命と国民国家
6	近代「国民国家」の成立（3）——ウィーン体制から民族主義の時代へ
7	「民族」と「ナショナリズム」論——理論的整理
8	アフリカ——植民地統治、人種隔離政策、「部族」主義
9	映像鑑賞——『ホテル・ルワンダ』
10	ユダヤ・パレスチナ問題——複雑な歴史と大国の利害
11	アジア——スリランカの民族対立、クルド人問題
12	ヨーロッパ——旧ユーゴスラビア紛争
13	We the Indigenous!——先住民族運動のグローバルな展開
14	「多文化主義」という挑戦——「承認の政治学」
15	まとめ——「民族」の歴史と多文化共生社会の構築
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30%）、筆記試験（40%）、レポート（30%）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。

また、学期末には講義内容にかんする筆記試験、ならびに世界各地の民族紛争や民族・エスニシティ論にかんするレポートを課し、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）

【参考文献】

アンダーソン、B. 1997（1983）『想像の共同体』NTT出版

ゲルナー、E. 2000（1983）『民族とナショナリズム』岩波書店

松原正毅（編）2002『世界民族問題事典』明石書店

多民族論

担当教員 前原 直子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

日本及び世界における多様な事例を取り上げながら、「民族」と「国家」をめぐる諸問題について理解・考察できるようにすることを目指す。具体的には、近代国家の始まりや、そこに潜在化していた矛盾、第二次世界大戦後における「エスニック少数派」の動き、多くの犠牲者を生み出してきた内戦、現在のグローバル移民の増加と多文化主義の台頭、政策をめぐる論争などである。それらをとおして、私たちの「民族」をめぐる様々な「思い込み」を内省し、多文化共生社会を築くための手がかりを探っていききたい。また、グループ活動やシミュレーション、発表などをとおして、コミュニケーション・スキルを養っていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「民族」とは何か？：本質主義と構築主義
3	近代国民国家はどのように始まったかーヨーロッパ
4	近代国民国家はどのように始まったかーアメリカ合衆国
5	近代国民国家はどのように始まったかーアフリカ
6	近代国民国家はどのように始まったかー日本
7	近代国民国家はどのように始まったかーまとめ
8	中間レポート読み合わせ
9	第二次世界大戦後における「エスニック少数派」の動き
10	冷戦終結後の難民と民族対立（映像鑑賞を中心に）
11	移民の増加と多文化主義の台頭
12	日本における多文化共生の課題
13	シミュレーションをとおして多文化社会に現実に起こりうる問題を考えてみよう
14	平等、それとも差異？多文化主義のパラドックス
15	本質主義を超えて？
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

毎週、授業の終わりにその時間学んだことを簡単に要約し、疑問や感想などと合わせて提出してもらいます。授業では、ペア・グループ活動やシミュレーション、学生同士でのレポート読み合わせなどに「参加する」こと、教室内の他の学生と「コミュニケーションを取る」ことが求められます。「ただ座ってるだけ」の授業ではないことを念頭に置いて授業に臨んでください。第1週目のガイダンスに履修上の注意点や評価方法など詳しく説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

【評価方法】

授業の「振り返りペーパー」30%、中間レポート30%、期末テスト40%を総合的に評価します。中間レポートと期末テストのどちらかの提出がない場合、不可となります。出席は必須です。諸事情による欠席は1回まで認めますが、それ以降は減点の対象となります。出席が3分の2に満たない場合、評価の対象となりません。

【テキスト】

配布資料や映像教材等を用います。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介します。

ミクロネシア研究 I

担当教員 石川 朋子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ミクロネシア研究Ⅱ

担当教員 石川 朋子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ヨーロッパ研究 I

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「ヨーロッパ研究 I」では、主としてドイツを中心としたヨーロッパの現代的な問題を対象にして講義します。ドイツが、ヨーロッパが、どのような未来を模索しているのかを考える契機にしたい。それぞれの問題が、ヨーロッパだけではなく、今日的な国際問題としてわたしたちにも関わっていることを理解していただきたい。

【授業の展開計画】

- 第 1 回：授業の概要
- 第 2 回：ヨーロッパとは何か（地理学的特徴、言語の多様性、ヨーロッパの範囲）
- 第 3 回：ヨーロッパとは何か（地理学的特徴、言語の多様性、ヨーロッパの範囲）
- 第 4 回：元ドイツ連邦共和国大統領ヴァイツゼカーの1985年5月8日の演説
- 第 5 回：元ドイツ連邦共和国大統領ヴァイツゼカーの1985年5月8日の演説
- 第 6 回：1920年代30年代のヨーロッパ
- 第 7 回：1920年代30年代のヨーロッパ
- 第 8 回：ナチズム、アウシュヴィッツ、ナチス追及、歴史家論争
- 第 9 回：ナチズム、アウシュヴィッツ、ナチス追及、歴史家論争
- 第 10 回：二つのドイツ、ベルリンの壁、ドイツ統一
- 第 11 回：二つのドイツ、ベルリンの壁、ドイツ統一
- 第 12 回：ヨーロッパの民族問題、ハプスブルグ家、「中欧」という概念
- 第 13 回：難民問題、ドイツの庇護政策
- 第 14 回：ドイツの極右主義、環境問題（森と軍事基地）
- 第 15 回：ドイツのフェミニズム、ヨーロッパ統合は可能か？
- 第 16 回：テスト

【履修上の注意事項】

出席をとります。ノートを用意して、講義内容を筆記してください。講義を受けていないとわからなくなります。休まないように。質問は歓迎します。再試・追試は一切行いません。

【評価方法】

主に、期末に実施するテスト（60%）によって評価します。また、課題（10%）、出席（30%）も評価に加味します。

【テキスト】

授業内で必要に応じてプリントを配付します。

【参考文献】

授業中に紹介する文献を読むようにしてください。

ヨーロッパ研究Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、ヨーロッパの中でも特有の立場に立つイギリスに焦点を当て、イギリスという国家が有する特徴を歴史的に理解することを目的とする。とくに、「地域」「王室」「宗教」「帝国」をキーワードとして、講義と演習を織り交ぜながら、講義を展開する。その際、新聞記事や映画、イラスト、小説などを題材として用い、ヨーロッパの中でのイギリスの位置づけを、多様な観点から行うことを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	現代の「イギリス」①：英国「王室」はどんな存在か？
3	現代の「イギリス」②：英国を構成する「地域」の特徴は何か？
4	現代の「イギリス」③：英国社会を構成する「人びと」は、どんな人たちか？
5	ヨーロッパの中の「イギリス」①：「英国人」はどこから来たか？
6	ヨーロッパの中の「イギリス」②：英国の統一国家を実現したのは、どんな人びとか？
7	「イギリス」の王室と宗教①：英国王室とフランスとの関わりとは何か？
8	「イギリス」の王室と宗教②：英国王室の「自立」とヨーロッパ諸国との関わりとは何か？
9	「イギリス」の王室と宗教③：英国の「宗教改革」とは、どんな改革だったのか？
10	「イギリス」の王室と宗教④：英国国教会とカトリックとの関係はどうなったのか？
11	「イギリス」の王室と宗教⑤：エリザベス1世の統治が生み出した「英国」とは何か？
12	大英帝国の社会と文化①：「大英帝国」の特徴とは何か？
13	大英帝国の社会と文化②：ヴィクトリア朝時代の特徴とは何か？
14	大英帝国の社会と文化③：『シャーロック・ホームズ』の中に表れる大英帝国とは何か？
15	まとめ：ヨーロッパにおける「イギリス」の位置づけとは何か？
16	

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、昨年度まで開講された「イギリス研究」を引き継いだ内容となっている。
- ② 本講義を履修するための前提条件はない（ヨーロッパ研究Ⅰを未修得でも履修できる）。
- ③ 出席は毎回必ず取る。

【評価方法】

レポート（60%）、ワークシート（25%）および平常点（15%）の総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献】

- ①近藤和彦『イギリス史10講』（岩波書店、2013年）、②指昭博（編著）『はじめて学ぶ イギリスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2012年）、③井野瀬久美恵（編）『イギリス文化史』（昭和童、2010年）、④黒岩徹・岩田託子（編）『ヨーロッパ読本 イギリス』（河出書房新社、2007年）、ほか

ヨーロッパ研究Ⅱ

担当教員 上江洲 律子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「ヨーロッパ研究Ⅰ」と同様に、ヨーロッパという概念や、EUの成立などを確認した後、ドイツとともに、EUという組織の両翼を担う国「フランス」を1つの切り口として、ヨーロッパの社会的および文化的な特徴をたどります。そして、そこに内在する様々な国々への関心を高め、「多様性の中の統一」を志向することによって生じる国同士の問題や、あるいは、それぞれの国が抱える矛盾などに触れながら、自分の国のあり方について改めて考察する契機となることを目標とします。

【授業の展開計画】

- 第01回：ガイダンス
- 第02回：ヨーロッパについて（1）
- 第03回：ヨーロッパについて（2）
- 第04回：EUについて（1）
- 第05回：EUについて（2）
- 第06回：EUについて（3）
- 第07回：ヨーロッパの形成の歴史（1）
- 第08回：ヨーロッパの形成の歴史（2）
- 第09回：ヨーロッパの言語
- 第10回：ヨーロッパの宗教（1）
- 第11回：ヨーロッパの宗教（2）
- 第12回：ヨーロッパの宗教（3）
- 第13回：ヨーロッパの植民地主義（1）
- 第14回：ヨーロッパの植民地主義（2）
- 第15回：復習
- 第16回：テスト

【履修上の注意事項】

毎回異なる内容を扱うので、学生の方々は、学んだ知識を相互に関連させながら、ヨーロッパを概観できるように努めて下さい。

※毎回、授業の最後にコメントシートを提出して頂くことで出席をとります。

※再試・追試は一切行いません。

【評価方法】

主に、期末に実施する論述形式の筆記テスト（80％）によって評価します。また、出席（20％）も評価として考慮します。

※単位取得のためには、授業における3分の2以上の出席を義務付けます。

【テキスト】

授業内で必要に応じてプリントを配付します。

【参考文献】

ガイダンスの際に紹介するほか、授業内で必要に応じて紹介します。

ラテンアメリカ研究

担当教員 稲村 幸子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域の社会と文化について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。ラテンアメリカを語るときに基本となる用語、事項について簡潔に説明できるようになることを目標とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「ラテンアメリカ」とは
2	南アメリカの地理 ブラジルを中心に
3	南アメリカの地理
4	中央アメリカの地理
5	先史時代
6	先スペイン期のメソアメリカ文明
7	先スペイン期のメソアメリカ文明およびアンデス文明
8	先スペイン期のアンデス文明
9	征服・植民地時代から独立へ（スペイン領を中心に）
10	メキシコについて
11	中米諸国について
12	カリブ海諸国について
13	アンデス諸国について
14	ラ・プラタ諸国について
15	ラテンアメリカと日本
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

授業は講義形式で行います。毎回、まとめと確認のための小テストを行います。

【評価方法】

授業ごとの小テストと学期末テストの合計で評価します。

【テキスト】

特に指定しません。授業の中で必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』（中公新書） 増田 義郎
また授業の中で、内容ごとに文献の紹介をします。